令和元年度

広島派遣

飛島村平和推進事業

事業のねらい

近年、戦争を知らない世代が人口の大半を占めるようになり、平和に慣れ、感謝する気持ちはおろか、真に平和を願うという思いが薄らいできている。人々を不幸に陥れる戦争を再び繰り返さないためにも、今日の平和が多くの犠牲の上に成り立っていることを見つめ直す必要がある。

この事業を通し、平和への願いをいっそう強め、今生きていることに感謝するとともに、学んだことを後世へ語り継ぐことが重要であり、平和に貢献できる人づくりを目指す。

引率教諭
　大杉　好弘
９年
　白井　美羽
　鈴木　彩夏
　鈴木　丈翔
　髙橋　慶多
　成田　有里
　山﨑　匠

７月４日（木）　事前研修会

生涯教育課
　課長　　河村　泰
　主事　　大瀬　絢賀
飛島学園飛島中学校
　教諭　　大杉　好弘
参加生徒　６名

広島へ中学生を派遣する意味、飛島村の平和推進事業への取り組みの経緯や二日間の行程について説明を受けました。その中で、世界平和に貢献できる人づくりにかける村の方々の思いを受けとめた参加者たちの表情には、事前学習にしっかりと取り組み、多くのことを実習で学ぼうという決意がみなぎっていました。

7月31日(水)

村長表敬訪問

広島出発を目前に、派遣生徒は久野村長を訪れました。学園全体で作成した千羽鶴を披露し、生徒たちは派遣への抱負を述べました。
久野村長から平和推進への取り組みや激励の言葉をいただき、派遣生徒一同は決意を新たにしていました。

参加生徒の抱負

白井　美羽
二度と戦争が起こらないように伝えていきたい。

鈴木　彩夏
被爆者の話を真実として、後世に伝えたい。

鈴木　丈翔
原爆について、事前に学び当日、さらに深めたい。

髙橋　慶多
今の平和のありがたさを感じたい。

成田　有里
原爆の恐ろしさについて学び、これからの自分にできることをしっかり考えたい。

山﨑　匠
人々のあやまちについて、二度と戦争が起こらないように未来へつなげたい。

8月5日（月）

中央公民館 8:00 → 8:05 近鉄蟹江駅 8:24 → 名古屋駅 9:05 → 9:13 広島駅 11:26 → 広島グランドインテリジェントホテル 11:45 → 12:45 広島ガーデンパレス 14:00 → 16:00 平和記念公園 16:40 → 18:45 コートホテル広島 20:30

〈昼食〉　〈平和学習〉　〈碑めぐり・資料館見学〉

8月6日（火）

コートホテル広島 6:30 → 平和記念公園 8:00～9:00 9:20～10:15 → ホテルグランヴィア広島 12:15 → 13:15 広島駅 14:17 → 名古屋駅 16:30 → 近鉄蟹江駅 16:46 → 16:54 中央公民館 17:20

〈平和記念式典・献花献水慰霊式〉　〈昼食〉

8月5日(月)

出発式

教育部長あいさつ
生徒代表誓いの言葉

いよいよ出発です。戦争・平和について学び、被爆者援護会の方々の講話や献花献水慰霊式に参加するなど、密度の濃い日程になっている。実際に広島で体験し、各自の学習テーマについて学んできてほしい。

教育部長　佐野　まゆみ

広島で、戦争や平和について学ぶ機会をくださりありがとうございます。広島へ行って原爆の恐ろしさや日本に起きた悲しい事実について、しっかり学び、平和とは何かを学んできたい。

鈴木　丈翔

平和記念公園内碑めぐり

語り部

広島被爆者援護会

内藤　達郎さん

平和の鐘

広島の悲願に立ち、すべての核兵器と戦争のない、まことの平和共存の世界の達成をめざし、建設されたものです。

鐘の表面には「世界は一つ」を象徴する、国境のない世界地図が彫られ、撞座（つきざ）には、原水爆禁止をこめて原子力マークが入れられています。このマークをつくことで、核兵器廃絶の世界を誓います。

原爆死没者慰霊碑

中央には原爆死没者名簿を納めた石棺があります。現在 116 冊ある名簿のうち１冊は「原爆被災者氏名不明者多数」とかかれた白紙の名簿で、多くの名前もわからない死没者の方のためのものです。

また、石棺の正面には、「安らかに眠ってください　過ちは繰返しませぬから」と刻まれています。

真ん中に見える平和の灯は、地球上から核兵器がなくなるまで、常に燃やされています。平和記念式典が行われる８月６日は灯が大きくなります。

原爆の子の像

モデルとなった佐々木禎子さんは、白内障を患い、闘病生活の中で、病気が治ると信じて薬包紙などで鶴を折り続けました。

佐々木禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった多くの子どもの霊を慰め、世界に平和を呼び掛けることを目的として建立されました。

像の真下の石碑には「これはぼくらの叫びです　これはわたしたちの祈りです　世界に平和をきずくための」と刻まれています。

平和学習

語り部

広島被爆者援護会

土井　光子さん

原爆が投下された当時、土井さんのお母さんが体験されたことをお話しいただきました。原爆が投下された直後、歩いて自宅へ戻るときのことです。

…たくさんの人が亡くなりました。人間が、人間らしく死ねなかったのです。

地べたに死体がいっぱいだったのです。母は着物を着ていましたので、裾がひらひらします。瀕死の重傷でありながら、藁をもつかみたい。誰かに助けを求めたい。そんな気持ちが着物の裾をつかむのです。

母は「ごめんなさい。何にも出来なくて。私も逃げているんです。ごめんなさい。」と言いながら、「お水をください。」「助けてください。」という声を、「お念仏だ」と聞き流して走ったそうです。そう思わないと心が壊れそうで、足が前に進まなかった。なんて自己中心的と思われるでしょうが、子どもを守り、自分を守り生きていかなければならなかった状況を、今なら理解できます。…

原爆が投下された時のことを、体験談を語り継がれている方の言葉で聞くことで一層当時の様子が想像できました。

土井さんのお話を聞いた後、一緒にお話を聞いていた沖縄県の北谷（ちゃたん）町の高校生と、新宿区親の会の子どもたちとグループでのディスカッションを行いました。

色々な思いや意見を話し合う貴重な機会に、みなさんとても良い表情で話し、学んでいました。

原爆資料館見学

2016年に現職アメリカ大統領として初めて広島平和記念式典に参列したバラク・オバマ氏が作成した２つの折り鶴が展示されています。

メッセージには「私たちは戦争の苦しみを経験しました。ともに、平和を広め核兵器のない世界を追及する勇気を持ちましょう。」と書かれています。

建物疎開作業現場では多くの犠牲者が出たそうです。

被爆した当時 12～14 歳の３名の中学生の制服を一体にして展示されていました。

とてもぼろぼろで原爆の威力やその場の壮絶さを感じました。

８月６日（火）

平和記念式典

平和への誓い

私たちは、広島の町が大好きです。
ゆったりと流れる川、美しい自然。
「おかえり。」と声をかけてくれる地域の人、
どんなときでも前を向いて生きる人々。
広島には、私たちの大切なものがあふれています。

昭和 20 年（1945 年）８月６日。
あの日から、血で染まった川、がれきの山、皮膚のはがれた人、たくさんの亡骸、
見たくなくても目に飛び込んでくる、地獄のような光景が広がったのです。
大好きな町の「悲惨な過去」です。
被爆者は語ります。「戦争は忘れることのできない特別なもの」だと。

私たちは、大切なものを奪われた被爆者の魂の叫びを受け止め、
次の世代や世界中の人たちに伝え続けたい。
「悲惨な過去」を「悲惨な過去」のままで終わらせないために。
二度と戦争をおこさない未来にするために。

国や文化や歴史、
違いはたくさんあるけれど、大切なもの、大切な人を思う気持ちは同じです。
みんなの「大切」を守りたい。

「ありがとう。」や「ごめんね。」の言葉で認め合い許し合うこと、
寄り添い、助け合うこと、
相手を知り、違いを理解しようと努力すること。
自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです。

大好きな広島に学ぶ私たちは、
互いの思いを伝え合い、相手の立場に立って考えます。
意志をもって学び続けます。
被爆者の思いに、私たちの思いを重ねて、平和への思いを世界につなげます。

令和元年（2019 年） 8 月 6 日

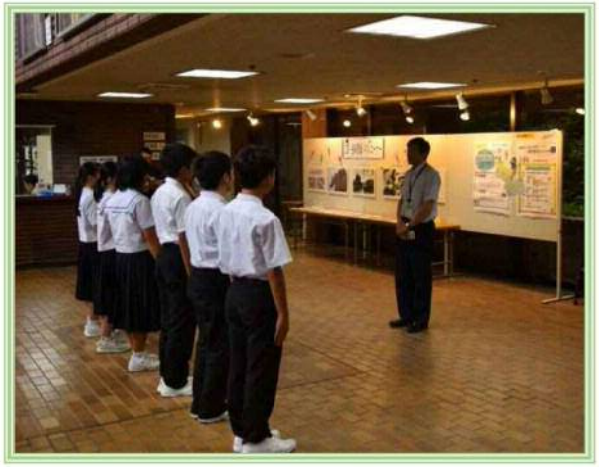
こども代表
広島市立落合小学校　６年　金田秋佳
広島市立矢野小学校　６年　石橋忠大

献花・献水慰霊式

生徒代表平和への誓い

私たちは戦争を知らない世代で、人が死んでいくところも見たことがないが、学んだことを家族や友人、後輩に伝えることができる。戦争や平和についてよく考え、大切な人に伝えたい。
山﨑　匠

解散式



教育長あいさつ

まずはお帰りなさい。式典や講話などを体験し、感じたものがあると思う。ぜひその体験や、戦争、平和などを各自解釈し、伝えてほしい。９年生としてこの体験は生き方や進路に色々な影響を及ぼすかもしれないが、前に進める２日間になったと思う。視野を広く持って、人に伝えられる人になってほしい。

教育長　田宮　知行

生徒代表お礼の言葉

実際に広島に行き、戦争や原爆の悲惨さは自分たちが想像していたものより、生々しく残酷であることを学びました。私たちが広島で学んだことを伝え、今の日常の幸せさを感じたいです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

白井　美羽

９月 20 日（金）　報告会

飛島学園文化祭にて平和推進事業広島派遣の報告会が行われました。派遣団員たちが広島を訪れ、それぞれ見聞きしたもの、感じたものをひとつの作品として、多くの方に伝えることが出来ました。

私たちは、第二次世界大戦中に起こった悲劇について学ぶべく、広島市を訪れました。そこで学んだことを少しでも多くの人に知ってもらうため、発表させていただきました。
私たち派遣団員の発表テーマに興味を持っていただければと思います。

ありがとうございました。

テーマ：原爆がもたらした苦しみと希望

９年　Ｂ組　名前　白井　美羽　.

タイトル：少しでも痛みを和らげる為に

この絵は、全身が焼きただれた被爆者が腕を前に伸ばして歩き回っている姿です。これは重力で血液が腕に回ると、耐えられない痛みが起こるからです。それはまるで幽霊のようですが、必死で生きようとしている姿でもあります。

タイトル：大量の頭蓋骨、その中の人生

一面に並べられた頭蓋骨。人の骨を、私たちは見たことないが、この写真には大量に写っています。全部本物です。全部 74 年前に広島で起こっていたことです。広島の人々の人生は、誰かも分からない頭蓋骨の中の１つとして、大量殺人兵器の被害者にされてしまったのです。

タイトル：つっぱった顔

外で寝転んでいる人がいます。体は固まり顔の皮膚はつっぱり、目は正しい位置にありません。モノクロでやっと見れるようなこの姿は、見なければいけない、忘れてはいけない姿だと思います。私はこんな姿を現実で見たくありません。ずっと先の未来でも私たちが起こさせません。

感想

「戦争で苦しい思いをしても、それよりも今楽しいことがあるから私たちは生きています」。

被爆者遺族の方が言った言葉です。戦争と向き合いながらも、今を楽しく生きている姿を見て、すごいと感じました。私は、戦争を知る人の話は、私たちにどれだけ戦争の恐ろしさや、今の時代の平和さを伝えられるものなのかと想像していました。しかし、生きる楽しさや喜びをもってお話されていると感じました。もちろん、原爆の話は恐ろしく、聞いているだけで息が詰まりそうでしたが、苦しく辛い思いの中だからこそ、今を生きる楽しさや喜びがより鮮明に感じられるのだと思いました。私には、戦争や平和について答えが出せるほどの力量はありませんが、漠然とした恐怖感と生きたいという思いをだけを感じました。

テーマ：原子爆弾による被害

９年 B 組　名前　鈴木　彩夏　.

タイトル：原子爆弾による被害

原子爆弾は投下から約 43 秒後に地上600m上空で、直視できないほどの光を放って炸裂し、小さな太陽のような火の玉を作りました。爆発の瞬間、強烈な熱線と放射線の放射と共に爆風が吹き、約 14 万人の尊い命が奪われました。

タイトル：広島型原子爆弾

広島に投下された原子爆弾の主な原料はウラン 235 です。これは天然ウランの中に 0.7%しか含まれていないものです。実際に投下された原爆は４t あり、ウラン 235 は約 60kg 使用されていましたが、実際に核分裂をおこしたのは僅か 700g 程度でした。

タイトル：長崎型原子爆弾

長崎に投下された原子爆弾の主な原料は、広島に投下されたものとは異なる、プルトニウムです。プルトニウムは人工的に作られたもので、ウラン 235 よりもさらに核分裂しやすい特徴があります。この原爆は 4.5t あり、プルトニウムは約 6.2kg しか使用されませんでしたが、広島型爆弾の 1.5 倍の威力があったと言われています。

感想

私は、今まで戦争について、教科書から得た知識しかなく、戦争について深く考えることもありませんでした。しかし、今回の平和推進事業に参加し、実際に被爆された方のお話を聞くと、教科書だけでは知ることのできない、当時の状況をリアルに感じることができました。その後、ディスカッションを行うことで、他の人の意見を聞き、より深く戦争について考えることができました。この研修を通じて学んだことを、しっかり後世へ語り継いでいきたいです。

テーマ：原爆の威力と悲惨さ

９年　Ａ組　鈴木　丈翔　　.

タイトル：原爆ドーム

広島県産業奨励館と呼ばれていた今の原爆ドームは、爆心地から近いところで被爆しました。もう少し遠くに原爆が落とされていたら、横からの爆風により崩れていたそうです。

原爆ドームは負の遺産として世界遺産に登録されており「二度と同じ悲劇が起こらないように」という願いが込められています。テレビで見るよりとても迫力があり、原爆の威力のすさまじさが分かりました。

タイトル：３人の学生服

この服は、爆心地から 900mの小網町の中学生、津田さん、福岡さん、上田さんのものです。彼らは、爆心地から 900mの場所で被爆しました。学生や幼い子どもたちの命を無差別に奪ってしまう、原爆の恐ろしさと被害の大きさや悲惨さを感じました。

タイトル：平和の灯

この火は 1964 年８月１日に点火されてからずっと燃え続けています。火が灯されている火台は、手首を合わせて、手のひらを大空に広げた形を表現しています。火は核兵器が地球上から無くなるまでずっと燃え続けます。核兵器廃絶を訴えていかなければいけないと思いました。

感想

僕はこの派遣で、多くのことを知ることが出来ました。原爆は、地上に落ちてから爆発したと思っていましたが、実際は上空 600mで爆発していたということが分かりました。もし、地上で爆発していたら、被害は少なくなっていたそうです。

また、広島には「廣島」「ヒロシマ」「広島」の３つの表現があり、その中で特に印象的だったのが、「ヒロシマ」です。「ヒロシマ」は原爆を投下された街として核兵器廃絶を目指す都市であることを言います。僕たちはこの派遣で広島ではなく「ヒロシマ」を学んできました。そして、学んだことを、伝えていきたいと思いました。

テーマ：広島の存在が与える影響

９年　Ｂ組　名前　髙橋　慶多　.

タイトル：原爆ドームの迫力

　インターネットなどを通して、写真は見たことがありましたが、実際に前に立つとどのような印象を受けるのだろうと想像していました。いざ、原爆ドームを目の前にすると、その被害の大きさに圧倒されました。原子爆弾について問いかけるこの建物の迫力を全身で感じました。

タイトル：全国の願いを乗せる千羽鶴

　原子爆弾の被害を受けたある女性は、入院中、身の回りにあった紙で鶴を折り続けました。「1000 羽折れば病気が治る」と信じていたからです。今では、全国から千羽鶴が贈られています。たった１人の行動が、日本全国に影響を与えたことに驚きました。

タイトル：Hiroshima の影響力は世界へ

　アメリカのオバマ元大統領が、広島を訪問されたときに折られた２羽の折り鶴とメッセージです。広島という存在が、戦争や原子爆弾による被害を忘れないようにしているうちに、その活動は海を越えて世界へと人々の想いを届けているのだと感心しました。

感想

　僕は、世界で最初の原爆で被爆した広島市の存在が、日本あるいは全世界に及ぼす影響について学ぼうと、広島派遣に参加しました。心に衝撃を与えるものがいくつもあり、「自分の目で見ること」の大切さを改めて実感しました。

　また、被爆者の方による講話で、信じ難いような光景についてお聞きしました。特に頭に焼き付いているのは、「皮膚の垂れ下がった人々が、自分の皮膚が落ちないように、ゾンビのように腕を前に上げていた」という表現です。その言葉を重く受け止めると同時に、講話をされている方々の言葉には、計り知れないほどの重みがあると感じました。

テーマ：これから先、自分に出来ること

９年　Ｂ組　名前 成田　有里　.

タイトル：原爆の恐ろしさ

　私はこれを見て、原爆がどれほど恐ろしいか分かりました。服がビリビリに破れ血だらけで、今ではあり得ません。でもこのようなことが本当に起きていたと考えると、今の生活がいかに幸せか、考え直すことができました。

タイトル：原爆ドーム

　原爆を投下する際に、放射能が１番効果的に広がる方法や、人間をたくさん殺す方法を考えた時に出た答えが、「600m上空で爆発させる」です。私はこれを知り、こんな考え方をするなんて、あり得ないと強く思いました。

タイトル：真っ赤な皮膚

　私はこの絵を見て、人間がこんな悲惨な姿になるなんて、と衝撃を受けました。痛くても、痛くても、家族のもとに行くために必死で郊外へ逃げていく姿を想像すると、本当に心が痛みます。

感想

　原爆の恐ろしさを今回、詳しく知ることができました。しかし、自分だけが知って終わりではありません。学んだことを多くの人に知ってもらわないといけません。これから先、自分にできることは何かを考え、「原爆とはおもちゃのようなものではない」ということを伝えたいです。そして、被爆者援護会の方が言ってみえたように、隣の人を優しく労わること、ありがとう、すみませんときちんと言うことをしていきたいです。このことは、これからの平和な世界を築くことにも繋がると思います。そのために、しっかりと自分たちが伝え、少しでも世界が平和になるよう努力していかないといけないと思います。

テーマ：人々の過ち

９年　Ｂ組　名前　山﨑　匠

タイトル：もう戻らないもの

　この建物は今、原爆ドームという名で知れ渡っている広島県産業奨励館です。このドームのほぼ真上に原爆が投下されました。このドームは本来取り壊されるはずでしたが、今は負の世界遺産として人々の戒めとして存在しています。

タイトル：動き続けた時計

　この時計は、本来原爆投下の８時 15 分に止まっていたはずの時計です。しかし、この時計はゼンマイ式で、投下後１分間だけ動いていたそうです。時計が止まる１分間を長く想像させられました。

タイトル：平和への鶴

　この鶴は、2016 年に当時のアメリカの大統領バラク・オバマさんが折った鶴です。オバマ元大統領は誰よりも平和を願っていた人で、2009 年には、ノーベル平和賞を受賞しました。このように、世界的に有名な人も広島を通し、平和について考えています。

感想

　僕は原爆ドームなどを見に行ったことがありませんでしたが、知識だけで少し知った気になっていました。しかし、実際に被爆者の方のお話を聞き、資料館を見てみると、自分は、本当はよく知らなかったのだと分かりました。被爆者の方のお話は、僕たちに様々なことを伝えてくれました。資料館では、写真や現物などで、より戦争の悲惨さを感じることができました。